勿凝学問 313

足りないのは、投資か消費か？
誤解の源はケインズの言葉だろうな

2010 年 6 月 8 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

Apple 愛用者の計量経済学者の同僚と、研究室で遊んでいた――その遊びは、僕がヴェブレンの言う「みせびらかし消費」をした iPad を彼にみせびらかすという遊び――ちなみに僕は、日本での発売前の 5 月のはじめに、歯医者さんからみせびらかされていた。。。

でっ、同僚と僕との会話。

「おっ、これかぁ。こんなに、小さいの。こりゃぁいいなぁ！」

「だろぅ？　ほら、これが、昨日インストールした Kindle。

これで、アメリカの Amazon.com に接続すると、本を買えるわけだ。

たとえば、Ｋｅｙｅｎｓで検索すると、えっ、一般理論が、3.05 ドル！？

アンビリーバボー！！！　買おっ」

ということで、『一般理論』をダウンロード。

Kindle を立ち上げて、The General Theory を開いたら、おっ、見出しにリンクが貼られているのを発見！

即座に 10 章の The Marginal Propensity to Consume and the Multiplier をタップしてジャンプ！

そこには次の文章がある。

> We established in chapter 8 that employment can only increase *pari passu* investment unless there is a change in the propensity to consume.
>
> （間宮訳「第８章でわれわれは、消費性向に変化がないとしたら、雇用の増加はただ投資の増加にともなってのみ起こりうることを確認した」）

僕は、「これなんだよなぁ。ケインズが線型の消費関数なんか定義するから、消費は所得で決まってしまい、需給ギャップを調整するのは投資しかないという妙な理屈がまかり通るようになってしまったんだよなぁ・・・」

彼「なるほど、そういうわけかぁ・・・」

と、ふたりで、投資の限界効率表なんてのは、あれは期待の話で、消費量が変われば期待としての限界効率表も動くに決まっているじゃないか、などなどと、iPad そっちので、『一

般理論』の話で盛り上がる。

> Consumption――to repeat the obvious――is the sole end and object of all economic activity.
> （間宮訳「消費は、わかり切ったことを繰り返すなら、あらゆる経済活動の唯一の目的であり、目標である」）

この消費こそが、いま不足しているのである。

ところが、世の中の多くのひとは、ケインズが投資の話に論点を集中するために仮定した世界にとらわれてしまい、需給ギャップは投資で埋めると考えるばかりで、他の箇所ではケインズも結構論じている消費性向を高めていく政策には考えが及ばない。だから、需要不足があるんだから投資を増やさなければとばかり考える彼らと、現下の需要不足は主に消費が不足しているからと診る僕の話はかみ合わない――と言うよりも、彼らは間違い続けているように見える。

だけど、大学の同級生として、金曜日の２限目に辻村江太郎先生の『経済政策論』――今考えれば、あの授業は一年間かけて当時流行りのマネタリズムや合理的期待形成理論を論駁することに狙いがあった？――などを受けていた彼（当時は知らんかったが）、そして辻村先生直系の黒田昌裕先生のゼミの学生として計量経済学者になっていった彼は、おもしろいほどに話が合う。やっぱり、大学時代の教育ってのはものすごく大きいんだよな。

ところで･･･先日、医療関係者を前にした講演の後の懇親会でのこと。

> A 医師「先生は、医療のことをよく理解してくださっていて、僕たちとしては本当にうれしいです」
> B 医師「それは違うね。権丈先生は、日本の経済を守るために、医療とか介護を利用しようとしているだけだぞ。潜在需要が大きくて、再分配効果が高いのがあれば、先生は、そっちを言うでしょう？」
> 僕「あはっ。バレてますか”(^^;”」

さすが B さん、僕の受け売り活動をしていると自認されるだけあります(^_^)。
今後ともゲリラ戦、よろしくお願いします！

ちなみに、武見太郎氏ご健在だった頃、医療を消費と言ったら、医療は投資だと医師会から文句を言われたと、僕の指導教授は言っていた（笑）。投資は価値があって消費はいけないことをしているという、なんだか、そういう深層心理があるみたいだね――マルサスやケインズは、そんな考えこそが、失業の究極的な原因なんだぞっと言うだろうね。